

## だんだんカンパニー起業式



▲起業式の様子

い」とあいさつがあり、また勝田副町長など七名から激励の言葉を受け、生徒たちは社員としての気持ちを引き締めていました。生徒は購買部、企画宣伝部、市場調査部などに配属。それぞれ業務を行い、十月には東京の「日本橋しまね館」で販売します。生徒たちは、「ものを作って売る」という一連の流れを経験することで、地域財産や経済原理組織で働くことの意味などを学びます。



▲真剣な表情の生徒たち

横田高校二年生を社員として運営する仮想会社「だんだんカンパニー」が活動を本格化しました。昨年度に引き続き、今年もブルーベリージャムの加工販売に挑みます。七月十四日、大呂地区の国営開発農地で、原料となるブルーベリーの収穫を行い、二十三日には起業式が行われました。式では、だんだんカンパニーの社長である佐藤勇人校長から「だんだんカンパニーでの経験は、卒業後に必ず役立つので真剣に取り組んでほしい」と。

## 横田高校で進路ガイダンス

七月九日と十日の二日間、高校生に将来の見通しを立てる機会を与え、卒業後の進路開拓意識を高めることを目的に、横田高校三年生約五十人を対象に進路ガイダンスが行われました。

ガイダンスでは、町内の様々な分野で活躍する二十代から三十代の若手社会人十一人を講師に迎え、仕事を選んだきっかけやこれまでの苦労、仕事をやる心構えなどの意見交換を行いました。

また、町内十箇所の企業を二コースに分かれて訪問し、地元から様々な製品が開発、製造され、全国や世界で販売されていることに驚いていました。二日目の最後には、「働くこと」について感じたことなどをグループごとにプレゼンテーションしました。生徒からは「目標に向かって努力することが大切」「人の役に立



▲プレゼンテーションの様子

「したい」「社長になりたい」など様々な感想や抱負があり一人ひとりが自分の将来について真剣に考える有意義な時間となりました。

## 勇壮な剣舞が奉納 船通山山頂で宣揚祭

須佐之男命がヤマタノオロチを退治した時に尾から「天叢雲剣」が出てきたとされる神話の舞台である船通山の山頂で七月二十八日、第四十五回宣揚祭が行われました。

今年も、古事記編纂千三百年を記念して鳥取県からツアー客が訪れるなど、県内外から約三百五十人の登山客や関係者が参加して盛大に行われました。神事では、鳥上小学校児童

による古事記朗読や、夏山の安全と地域の繁栄を祈願して須佐之男命に扮した宮司によって勇壮な剣舞が奉納され、参加者を魅了しました。下山後には、斐乃上温泉斐乃上荘で「神話の里交流会」が開催され、桂三段さんの落語「やまたのおろち」、早苗ネネさんの和歌うたコンサートがあり、参加者は神話の世界を堪能しました。



▲神事の様子

## 指導農業士に2人が認定

農村の青少年農業者やグループの育成指導にあたり、積極的に研修の受け入れや地域農業の発展を推進している農業者を、島根県では「指導農業士」として認定しています。

今年も奥出雲町から、畜産経営で多くの青少年農業者を指導育成した、農事組合法人中国牧場代表取締役の町谷修二さんと、平成11年にIターンし、花壇用苗木などを栽培する有限会社さあやファーム取締役の西村行緒さんの二人が認定されました。



▲西村行緒さん

▲町谷修二さん

## 半世紀にわたる尾原ダム事業 奥出雲町尾原ダム連絡協議会解散

奥出雲町尾原ダム連絡協議会の解散式典が七月二十九日、亀嵩温泉「玉峰山荘」で開催されました。

式典には、尾原ダム事業の移転・協力者である会員をはじめ、国土交通省出雲河川事務所長、町執行部、岩田前町長など約五十人が出席しました。ダム水没面積の半分を占める奥出雲町では、前布施、林原、山方の三集落が消滅、上鴨倉、佐々木集落の一部が水没し、四十三世帯が移転を余儀なくされました。昭和五十一年十月に尾原ダム建設計画が発表になり、「尾原ダム建設反対期成同盟会」が結成。その後、反対運動が展開されましたが、「斐伊川流域の生命財産を守る」という大義のもと、昭和六十年三月に「ダム建設に同意」という苦渋の決断がなされ、その後「尾原ダム対策同盟会」、「尾原ダム連絡協議会」と改組され、様々なダム事業が進められました。

会長は「ついに完成したという感激・安堵と、ふるさとは湖底に深く消えてしまったという複雑な思いが交錯している」と話され、苦渋の選択から全員が立派に生活再建を果たすことができたことに対し、お礼が述べられました。また、来賓から「ダム事業に協力してよかったと思ってもらえるよう、今後もダムを活用した地域振興に取り組んでいく」と述べられました。式典に続き、懇親会も開催され、半世紀にわたったダム事業や生まれ育った故郷を語り合い、会員の絆を深めました。

島根県が支援する森林保全活動「しまね企業参加の森づくり」に取り組み山陰酸素工業株式会社（本社・米子市）が七月八日と二十八日、上阿井の「たたら角伝承館」付近の山林で、述べ百人の社員が下刈り作業を行いました。この山林には、ケヤキ、ミズナラ、クリ、サクラなど約三千本の苗木が植えられており、下刈りは苗木が育つため

にとっても重要な作業です。参加者は森林組合職員の指導のもと、急な斜面を登りながら、植栽した木の周りの草を約一時間かけて丁寧に取りました。日差しが照りつける暑い中で作業でしたが、参加者は流れる汗をぬぐいながら一生懸命作業し、森林保全活動の大切さを実感していました。



▲作業をする社員たち



▲解散式典の様子